

都市再生整備計画(第4回変更)

カミヨモギタチク
上蓬田地区

フクシマケンヒラタムラ
福島県平田村

平成23年3月

変更部:赤字

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	フクシマ県 福島県	市町村名	ヒラタムラ 平田村	地区名	カキヨモギタテ 上蓬田地区	面積	150 ha
計画期間	平成 19 年度 ~ 平成 23 年度	交付期間	平成 19 年度 ~ 平成 23 年度				

目標

- 住んでいる人が、誇りがもてる居住テリトリーの整備と交通環境改善による交流拠点の創造
- 若者が定住できる生活環境の整備による中心商業地域のにぎわいを再生する。
 - あぶくま高原の地域(観光)資源を活かすとともに交流施設整備による一層の交流人口拡大により地域振興を図る。
 - 道路等の整備により住地域と中心商業地とのアクセス条件、交通安全性、歩行者の快適性の向上を図る。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

平田村は福島県の南東部に位置する、あぶくま山系の中央にあって、面積93.53km²、人口約7千6百人の村である。道路交通網としては、あぶくま高原道路(福島空港南道路)が平成16年11月25日に平田インターから小野インター(磐越道小野ジャンクション)まで開通し、今後平成22年には、東北自動車道矢吹インターから磐越自動車道小野インターまでの全長約36kmが供用開始となります。全線開通後は、地域住民の生活道路、福島県内外からの観光ルート、さらに陸と空の物流拠点を結ぶ道路として大きな役割を担うこととなります。

このような背景のもと、当地域が広域交通の交流拠点としての位置付けから、平田インター周辺を含む当該地域については、本村の中心市街地として住民の生活を支える地域として活性化させる必要があります。現在は、少子高齢化等による既存商店の空洞化が進んでおり、衰退傾向にあるため、あぶくま高原自動車道の平田インター整備をインパクトとした活力により、将来のまちづくり再編を目指すものです。

- 平田村第4次総合計画において、当地域は平田村の中心市街地として、住民生活の拠点および観光交流来訪者に対する玄関口として位置付けされている。
- 当地域は、平田インターを利用した地域活性交流促進事業構想の区域内にあり住民生活の支援、まち中住居の推進、地域資源を生かした観光の振興及びこれらの基盤となる道路等の交通環境改善による活性化の方向性が示されている。
- 当地域は「平田IC愛護会」を中心として、平成17年2月より市民参加と住民協働でのまちづくりに関する取り組みが継続しており、住民団体等実行委員会によるイベント「ジュピアランドフェスティバル」など各種イベントでの住民参加が進められまちづくりの気運が盛り上がっている地域である。
- 本計画策定にあたり、地域活性交流促進事業検討委員会作業部会(ワークショップ 平成17年2月~平成18年6月 計6回)を開催し、計画の内容やその進め方について協議提案を行った。
- あぶくま高原道路全線開通に合わせ期待される広域的な交流の拡大や連携強化に向け、「平田地区地場産品振興検討会」を設置し、地場産品の質の向上や新たな商品の開発等の検討に着手し、平成17年度と18年度に「ひらたミニ直売所」として実際に地元生産者、加工者、販売者が行政と連携しながら社会実験を行っている。
- 国道49号は、いわき市と新潟市を結ぶ東北南部地域における横断軸として位置づけられており、その中で平田村は、主要都市であるいわき市と郡山市の双方に隣接し、位置的にもいわき~郡山間約80kmの中間地点にあたる。また、福島空港へのアクセス、および東北自動車道と磐越自動車道を連絡するあぶくま高原自動車道が国道49号と連絡することから、周辺町村との広域交流(exとうろく君)の拠点として地域の活性化が期待されることもある。その一旦を担う地域振興の展開の場として「道の駅」の検討を行うものであり、地域のPR産業関連効果(生産誘発、雇用効果など)を担う地域振興を目的とした公益性の高い施設を目指し、国道49号沿いに「住民が主人公になる『道の駅』」設置を目指し、平成17年3月に「道の駅ひらた」

課題

- ・少子高齢化が進む中で、住民生活の安全、安心化
- ・地域経済の活力を確保するためには、住環境の整備。特に若者の定住促進施策が喫緊の課題である。
- ・平田インター供用に伴う広域交流拠点としての機能を蓄えとともに、整備効果を地域資源が豊富なまち中に誘導し、中心商業地に活力を与え、定住促進に寄与する整備が課題である。
- ◎ 平田村の経済基盤については、農畜産物と勤労者所得であるが、芝桜シーズン入り込み客数65,000人のジュピアランド(芝桜の里)がある。この経済効果を過年において、中心市街地で受け止め地域振興の核に育てる必要がある。
- ◎ 交通面では、国道、あぶくま高原自動車道(地域高規格道)、福島空港などの広域交通拠点としての立地条件を有しているが、公営住宅団地、平田ニュータウンと中心商業地とのアクセス等基盤条件が不備である。
- ◎ 住民や観光客が回遊して時間消費できるようなまちづくりが必要である。

(交流センター~ほたるの里公園~ファミリー牧場~中心商業地)

将来ビジョン(中長期)

公営住宅団地、平田ニュータウン、県立高校等が集積する本地区において、主に住環境機能と自然が共生し、人と自然が輝き、新しい活力がみなぎるむらづくりをめざす。

- 第4次平田村総合計画では、住民生活を支える多様な生活関連機能の集積を図るとともに交通交流の拠点としての整備推進地区の位置づけがされている。
- 平田インター周辺地域の活性化、交流促進などをすすめる中で、持続的に発展可能なまちづくりをめざすこととされている。

目標を定量化する指標

指標	単位	定義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
平田村交流人口	人/年	ジュピアランドひらた来場者数	平田インター周辺整備効果による連携したまちづくりの結果を来場者の増加より指標する。	70,011	H17	95,000	H23
今後の定住意向	%	平田村総合計画(第4次)村民アンケートによる10~20代の定住意向	広域交流拠点整備による中心商業地への動向を受けた魅力あるまちづくりによる定住意向の増加を目指す。	55	H17	60	H23
年間商品販売額	万円/年	福島県商業統計調査結果報告書による平田村内の商店の年間商品販売額	定住および観光交流来訪者による地域づくりにより、村の産業と連動した商品販売額の増加数を指標とする。	405,000	H14	420,000	H23

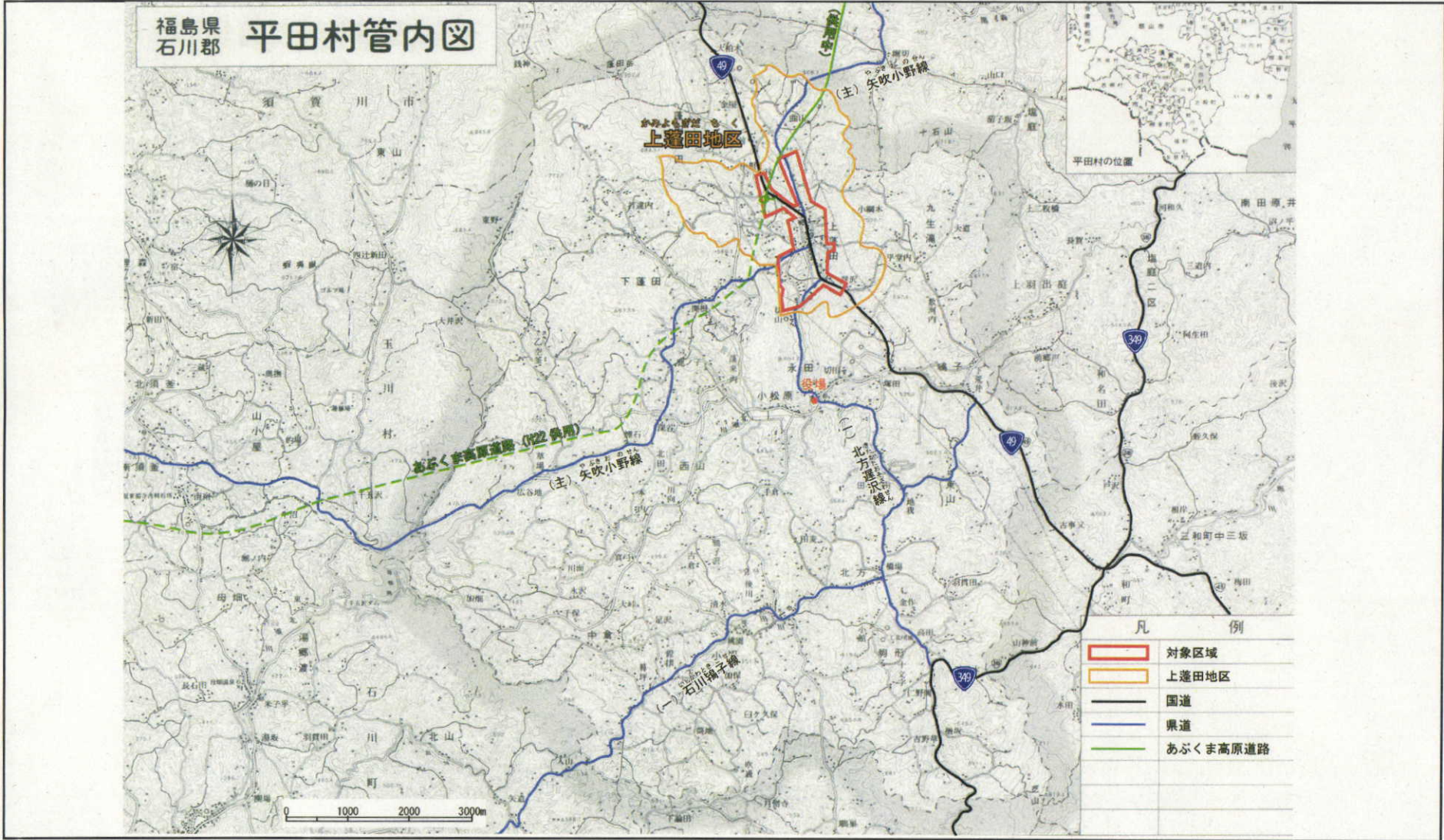
都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>交流拠点施設整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国道一体型の「道の駅」を整備し、地域振興施設において「あぶくま高原道路」供用による広域交流の拠点施設として活用する。 ・観光交流来訪者の玄関口として、地場産品の販売、紹介を行いながら交流を図る。 ・まち中の中心商業地や地域資源回遊のための窓口として情報発信を行う。 <p>若者が定住できる生活環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな地域高規格道路の整備による生活基盤の変化が進む中で、新たなまちの魅力を創出する上で住環境の整備を行い、今後変革するであろう地域経済の原動力となる若者の定住促進を行う。 <p>少子高齢化が進む中で住民が安全・安心に利用できる道路整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住宅や文教施設が集積された地域からまち中の商業地へと移動するにあたり、利用しやすく、住民がコミュニケーションを図りながら生活できる路線を整備する。 ・高齢化による衰退傾向にある中心商業地へ足を運びやすくし、定住した若者の住まいから利便良く通勤または買い物ができる生活環境道路整備をする。 <p>地域資源回遊ルートの整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光交流来訪者へ平田村の地域資源が運動している中心商業地の裏通りを活用した魅力づくりを発掘し、館山公園や神社仏閣の回遊性を高めながら、中心商業地への誘導を積極的に図り、衰退した中心商業地に活力を与える。 <p>平田インターを活用した自然とふれあう交流の場の創造</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国道49号と平田インターが結節され、多くの交通流動が図られ、平田村の玄関口となる要所に、更なるインパクトを与え、交流人口の増加を図る。 ・道の駅整備と連動させるとともに、あぶくま高原自動車道の休憩所としての流動を印象づける上で、自然条件から創出されたホテルを活用した憩いの場の形成を図る。 ・畜産の村としてのアピールを行い、動物とのふれあいを楽しむ環境整備をインター内を利用し整備を行うことで、村全体のPRを進めると共に、地域の個性が発揮できる交流施設としてファミリー牧場を道の駅と連動し整備する。 	<p>地域創造支援事業(観光交流センター):提案事業 まちづくり活動推進事業 事業活用調査</p> <p>公営住宅等整備事業:基幹事業</p> <p>道路事業:基幹事業</p> <p>裏通り整備事業(歩行支援施設、緑化施設等):関連事業</p> <p>公園整備事業:関連事業</p>
<p>その他</p> <p>○ 持続可能な村民主体となるまちづくり活動について</p> <p>当地域は、あぶくま高原道路と国道49号の地域高規格道路が結節される平田インターが整備され、広域的な人々の流動が行われることが予想され、交流結節点としての道路利用者サービス機能を目的とした「道の駅ひらた」の整備計画が進められている。</p> <p>平田村は、道の駅の地域振興施設をまちづくりの拠点とし、村民主体で持続可能なまちづくりを道の駅検討委員会作業部会として意見交換しながら進めている。その他、道の駅で販売できる地域特性を活かした食文化の調査も、地場産品地域振興会が主体となり、社会実験としてミニ直売所を実施するなど、調査が進められている。</p> <p>○ 事業終了後のまちづくり活動</p> <p>道の駅地域振興施設を拠点とした村民主体のまちづくりが進められる中で、事業終了後においても、引き続き道の駅を拠点としながら、地域の特色を創出した試みを実施する。その中で、中心商業地への誘導や旧道の文化財を活かした街並みへの誘導を模索するところであり、回遊できる沿道景観の整備や安全性の確保などの協議をすすめ、村全体への波及について協議を進めるところである。</p> <p>○ 交付期間中の計画の管理について</p> <p>目標に向けた確実な管理を実施するために、村と「道の駅」検討会を中心とした分科会の活動をとした各機関の代表者と協働し、毎年事業の内容を精査しながら事業の進め方や改善事項を整理し、場合によっては、村民アンケート調査を実施しながら、適宜事業の経過を公表し進める。</p>	

都市再生整備計画の区域

カミヨモギタチク(フクシマケンヒラタムラ)
上蓬田地区(福島県平田村)

面積	150 ha	区域	平田村大字上蓬田字横森後、上宿、大石、切山地内
----	--------	----	-------------------------



上蓬田地区(福島県平田村) 整備方針概要図

目標	住んでいる人が、誇りをもてる居住 Territories の整備と、交通環境改善による交流拠点の創造を目指します。交流人口拡大のための地域振興施設を創造し、地域住民との交流促進を図りながら、良好な居住環境から中心商業地へ安心して利用できる快適な生活基盤を創造するため、地域住民と協働しながらまちづくりの推進を目指します。	代表的な指標	平田村交流人口(人/年)	70,011	(H17年度)	→	95,000	(H23年度)
			今後の定住意向(%)	55	(H17年度)	→	60	(H23年度)
			年間商品販売額(万円/年)	405,000	(H14年度)	→	420,000	(H23年度)

